



発行所  
財団法人兵庫県消防協会  
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号  
編集発行人 岸 谷 義 雄  
定価 1部44円  
(購読料は分担金を含む)  
題字 井 戸 知 事

消したはず  
決めつけしないで  
もう一度

# 平成二三年 春の叙勲(消防関係) 伝達式が挙行

平成二三年春の叙勲が四月二十九日に発令されました。叙勲の受章者(消防関係)は、全国で六三三名、うち兵庫県では、元消防団員・職員一九名が叙勲の栄に浴されました。

受章された方々は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防衛するとともに、幾多の災害に対して、率先垂範して敢然と立ち向かわれ、地域の安全・安心の確保に尽力されました。また、消防力

の強化、充実に努めるとともに、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与されたこと等、これまでの抜群の功績により、その榮譽に輝かれました。今回の叙勲の伝達式は東日本大震災のため例年より遅くなり

ましたが、平成二三年六月二八日(火)午前十一時一五分より東京・虎ノ門の日本消防会館ニッショーホールにおいて執り行われ、総務大臣から各代表者に叙勲が伝達されました。午後から受章者の方々は皇居へ参入、拝謁した後、記念撮影が行われました。なお、全国の消防関係受章者数、勲章別内訳及び本県の受章者は次のとおりです。

《全国消防関係受章者数》

瑞宝中綬章	一名
旭日小綬章	二名
瑞宝小綬章	四名
旭日双光章	二名
瑞宝双光章	一〇四名
瑞宝単光章	四八〇名
計	六三三名



平成 23 年春の叙勲伝達式

《兵庫県下受章者(消防功勞)》

◎瑞宝小綬章

元西宮市

消防正監

岸本 健治



元加古川市  
消防正監

清田 利弘



元尼崎市  
消防正監

近成 義男



◎瑞宝双光章

元豊岡市日高消防団  
団 長

竹中 正巳



元加東市消防団  
団 長

吉田 繁



◎瑞宝単光章

元姫路市姫路東消防団  
分団長

石橋 雄



元姫路市飾磨消防団  
團 長

梶原 哲



元相生市消防団  
分団長

勝谷 敏宏



元川西市消防団  
分団長

小林 金一



元西宮市消防団  
分団長

辰馬 正治



元小野市消防団  
副団長

田中 康廣



元高砂市消防団  
分団長

玉野 平三



元赤穂市消防団  
分団長

團 武司



元淡路市消防団  
副団長

丹野 匡



元神戸市北消防団  
副団長

辻井 隆



元西宮市消防団  
分団長

中条 寛爾



元たつの市消防団  
分団長

前川 隆男



元尼崎市消防団  
副団長

丸岡 盛夫



元加古川市消防団  
分団長

宮永 正三



伝達式に参列された方々

## 平成二三年度春の褒章伝達式

(平成二三年春の褒章が四月二十九日(昭和の日)に発令)

平成二三年六月二十九日(水)

一一時一五分より都市センター

ホテルにおいて平成二三年春の

褒章伝達式が行われ、総務大臣

から代表者に褒章が伝達されま

した。

なお、本県の受賞者は次のと

おりです。

《兵庫県下受賞者(消防功績)》

◎藍綬褒章

新温泉町消防団

團 長 西岡 安雄



# 加西市消防団訓練礼式大会

### 取材協力 加西市消防団

平成二三年六月一九日(日)、加西市民グラウンドにおいて、平成二三年度(第二一回)加西市消防団訓練礼式大会が開催されました。「兵庫消防」編集事務局は、全国的にも珍しい噂の大会を突撃取材するため、現地へ向かいました。当日は、朝早くから加西市消防団第一〜二分団が集合し、盛大に大会が行われました。

この訓練礼式大会は、消防団の迅速、的確で統制ある消防活動を確立するため、昭和四六年から二年ごとに県消防操法大会が開催されない年に開催されて

#### (実施要領)

この訓練礼式大会は、消防団の迅速、的確で統制ある消防活動を確立するため、昭和四六年から二年ごとに県消防操法大会が開催されない年に開催されて

います。平成二二年には、新型インフルエンザの為に中止となり、この度、四年ぶりの開催となりました。

競技は、一チーム(分団)指揮者一人、右翼きよう導一人、左翼きよう導一人、隊員二十八人の合計三十二人で、礼式諸動作は、「消防訓練礼式の基準」に基づくほか、次のような要領で実施されます。

- 一 指揮者は「笛」の合図により「集まれ」の号令を下し、整列線において二列横隊の隊形をとらせる。
- 二 引き続き通常点検を行う。
- 三 通常点検終了後、指揮者は引き続き中央指揮号令の位置



開会式



訓練礼式競技



集まれ!!

に至り、「番号」に続いて「右向け右」の号令を下し、側面縦隊(四列)の隊形をとり、部隊行進を行う。

四 部隊行進中、指揮者は中央位置で「左向け左」の動作により部隊に正対して号令を下す。部隊行進後「分かれ」をかけ、訓練を終了する。

これら行動の審査については北はりま消防本部加西消防署の幹部職員が行い、各行動の的確性や指揮能力の他、行進時の歩数やタイム等について、減点方式により行われます。寸分の狂いもなく、全ての選手が一体となつて揃った瞬間の緊張感、行進の足音が「ザッ、ザッ」という一つの音となりグラウンドに響き渡った時の爽快感は、見ている者に感動と興奮を与えてく



第六分団 中村部長

れまます。

今大会では各分団接戦の結果、第六分団が優勝しました。

- 優勝 第六分団
- 準優勝 第十二分団
- 第三位 第十分団

大会後、第六分団指揮者中村哲太郎部長へのインタビューをお願いしました。

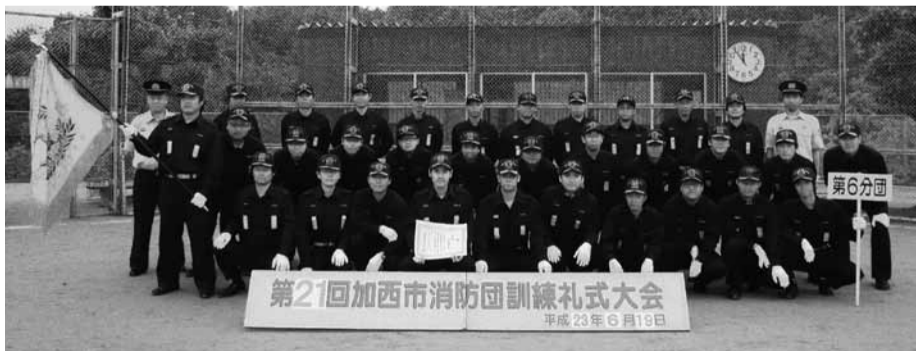
第六分団はほとんどが初心者ばかりであったそうですが、これだけ素晴らしい仕上がりになった背景には分団長の指示の元、



表彰式

練習に練習を重ねた努力の日々があったからです。練習の頻度は、ゴールデンウィーク明けから平日週三回で、夜八時から十時まで。六月に入ってから、平日は毎日練習を行い、雨の日は体育館を使って練習したとのこと。

初心者の選手が多いこともあり、最初は練習による成果が見られても、大会が近づくと少しの微調整になり、練習の成果が



優勝した第六分団

最初ほど顕著に見られず、選手自身も精神的に疲れ、士気が下がりがそうになった時期もあったそうです。しかし、それを乗り越えるためには、やはり練習あるのみで、つらくとも練習し続けたそうです。

中村部長は最後に「第六分団のチームワークはどこにも負けないと思います。初心者が多く、苦しさもみんな分かち合えました。そして、この優勝は、選手だけでなくOBや地元の方々に応援して下さったお陰だと心底思っています。皆様のご協力が無ければ、優勝は無かった。本当に最高の第六分団です！」と語って下さいました。

最後に高見団長へ、本大会開催についての思いと、団員の皆さんへのメッセージをお尋ねしたところ「礼式は現場での指揮が、指揮者により確実に出来、

迅速で的確な消防活動を行う為に必要なもの。有事の際の活動の根幹となるため、本大会はとても意義あるものだと思う。団員諸君は、昼間の仕事の後で、長期の訓練は本当に大変だっただろう。本日、大会を無事終えることが出来て、とても感謝している。」とおっしゃっていました。

今大会を通じ、団員の皆さんが身につけられた、消防活動の根幹となる厳正な規律と秩序ある団体行動を、有事の際に大いに発揮して下さいることを期待しています!

## 「こんにちは！ひょうごの消防団です」

<http://www.hyogoshoubou.jp/>



わがまちの団長さん

178

「真実一路」

姫路東消防団長

前田 昭廣



前に広がる天空を見ようと全国から観光客が訪れています。前田団長は、昭和四八年に姫路東消防団四郷分団に入団され、平成六年に四郷分団長、平成一二年に本部付分団長を経て平成一四年に副団長、平成二三年四月より、第八代目の団長に就任されました。

あり、お仕事と消防団を親子二代で活躍されています。座右の銘は「真実一路」だそうで、「偽りのない真心をもって一筋に進むこと」は、まさにご本人の消防団生活そのものではないでしょうか。

姫路東消防団は、世界遺産・国宝「姫路城」を初めとする文化施設、商業施設、繁華街、住宅密集地など多様な都市構成が形成される姫路市の中心部を管轄する消防団として、昭和四四年発足以来、分団の再編を経て現在一本部二〇分団、団員数六九〇名で組織されています。

現在、姫路城は「平成の保存修理」により、大天守は素屋根で覆われていますが、素屋根内部の大天守修理見学施設「天空の白鷺」によって改修の様子が公開され、海拔一〇〇メートル

四郷分団在籍時には、一番早く火災現場に駆け付け、消火活動、現場指揮にあたられ、出動回数も分団で一番多く、団員からは全幅の信頼を得ておられました。また、非常に面倒見が良く、物事をまとめる力に長けておられるため、団本部に入られてからは団のまとめ役に徹し、幹部からも全幅の信頼を得ておられます。

お孫さん二人がウエイクボード(水上版スノーボード)のプレイヤーとして活躍されており、休みの日には全国各地で開かれる大会へ応援に行くことが何よりの楽しみだそうです。

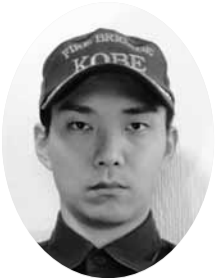
われら若手消防団員(40)

を受けたことです。

神戸市西消防団岩岡支団

第四分団北場班

長谷川 司



私が消防団に入団したきっかけは、顔見知りの先輩から勧誘

入団する前は自分の仕事や生活に追われてばかりで、地域の安全を守るという意識は乏しく、入団当初も消防の活動が随分面倒に思われることがありました。しかし、先輩方が忙しい中でも、きちんと責任感を持って活動をされている姿を見て段々と敬意を持つようになり、先輩方は普段は面白いことを言われていますが、いざ火事があればさっと出動し、落ち着いてポンプ車を出して、現場でテキ

消防団に入って活動を続けていく中で、初めて自分たちが地域の安全を守っていくんだという意識を持つようになり、いざというときに具体的にどう動けばいいのかを学ぶことができました。自分の仕事や生活のことだけでなく、地域のために貢献することの大切さを、消防団を通じて学ばせていただいたと思います。

消防団今昔

80

「自らの地域は自らで守る」

丹波市消防団氷上支団

専任副団長 松本 吉広



も取り上げられ話題になっております。丹波市消防団は平成一六年一月に六町合併による丹波市発足に伴い二、八九八名定数で現状統合しその後六支団、三八分団、九五部、団員定数二、六九六名となりその一歩を踏み出しました。

私は氷上町消防団第一分団に所属し副分団長から分団長拝命時でした。

丹波市は兵庫県の中央東部に位置し、南北に子午線東経一三五度線が通っており山林が約七五%を占め春のカタクリ、秋の紅葉など自然豊かで六町の特徴をいかした町づくりをおこなっています。

最近では山南町で大型草食恐竜の化石が発掘されメディアに

有し施設整備等の整備も区の大な支援を受け「おらが村の消防団」として誇りを持ち住民との信頼厚き態勢でありました。丹波市消防団となり二年後には部の統合や出動態勢、消防車両等施設整備充実に向けての見直しが行われました。団員の高

齢化、新入団員の確保など課題も顕著化してきた時期であり副団長として最善をつくしました。しかしながら依然として各支団の消防力に差があり、氷上支団においては、四〇名前後の団員定数を抱える部が出来るなど各支団において様々な課題がありました。こうした諸問題(組織の均衡化と団員数の適正化)に対応するため消防団幹部が「新時代に即した消防団組織について」を策定し地域の会合に出向き市民の皆さんの理解を得ながらこの二三年四月から段階的に消防車両等施設整備の充実、団員定数の適正化が図られております。現在定数二、一六一名、二七年には一、七〇六名の計画です。

平成二二年度

兵庫県まとい会理事会開催

兵庫県まとい会事務局

平成二三年六月一日、舞子ピラ神戸において、平成二三年度兵庫県まとい会理事会が開催されました。

松本会長が議長を務められる

地元の消防の皆さんが命懸けの活躍をされたと報道で聞きまし。普段から消防団の活動があつてこそ地域の絆が強まり、いざというときに動けたのだと思います。まだまだ未熟ですが、私も平時から自分たちが地域を守るのだという意識を高めて消防団の活動に当たりたいと思います。



まとい会理事会の様子



松本会長挨拶

のとおりです。

第一号議案

平成二二年度事業報告及び歳入歳出決算について

第二号議案

平成二二年度事業計画及び歳入歳出予算について

兵庫県まとい会 組織概要

県下全域に熟練した自主防災組織のリーダーを育成することにより、各地域の既設自主防災組織の充実・強化及び未組織地域の組織化を図るとともに、災害に強いまちづくりを推進することを目的として昭和六一年に設立されました。

消防団幹部OB及び現役消防団幹部で組織されており、より地域に密着した活動が可能となります。

現在県下で、七〇〇名程度の会員数を擁しています。

事業内容(平成二二年度)

- ①研修会の実施
著名講師による講演
②防災啓発資料の作成・配布



地 区 通 信

北但大震災記念消防訓練を実施

豊岡市城崎消防団

豊岡市は、平成一七年四月一日、兵庫県の北東部に位置する一市五町が合併したまちで、城崎地域は面積三一・九平方キロメートル、町の中には緩やかに流れる円山川があり、自然豊かな温泉を中心にした町です。城崎温泉は、ゆかた姿で下駄をカランコロンといわせながら七つの外湯をめぐる、日常の生活から解放された気分を醸し出してくれます。香川修徳が江戸中期に著した「一本堂葉選」で城崎の湯を天下一と賞賛したことから名付けられた「一の湯」。後堀河天皇の姉である安嘉門院が入湯された史実に由来し名付けられた「御所の湯」など、温泉街に点在する七つの外湯に七回入ると四十苦難から逃れるという言い伝えがあります。



震災訓練の様子①

昭和三十年四月には、内川地区の団員を含め新城崎消防団として活動を始めたと聞いています。その後、数回にわたる組織改組を行い、平成一一年四月には団組織が五分団一〇班となり現在に至っています。管轄区域の人口は約三八〇〇人と小規模ですが、温泉地であることから、夜間人口は宿泊される観光客などによって増えます。この地区を現在、定数一五〇名の体制で守っています。



震災訓練の様子②

今回は、五月二三日に行いました北但大震災記念消防訓練の様子を紹介します。この訓練の契機となった北但大震災とは一九二五年五月二三日、午前一一時一分兵庫県但馬北部円山川河口付近を震源とするマグニチュード六・八最大震度六・六当時の震度で最大)の地震でした。当時の建物は木造が多く瞬時に倒壊。昼食準備で火を焚いていた民家や旅館では火災が発生し、町は焼け野原になりました。



震災訓練の様子③

犠牲者の大半は、食事中に倒壊した建物に挟まれたまま火災によって焼死した女性たちであり、「北但大震災の最大の犠牲者は城崎の女性である」とまで言われています。この震災の記憶を風化させないために城崎消防団では毎年五月二三日に全分団、団員を対象に、より実践に近い設定にし、消防車両の配置場所やサイレン吹鳴の時刻、火災場所を伏せて消防訓練を実施しています。

今年、火災場所を道路状況と水利確保が困難と思われる城崎町飯谷区の韓国神社に決定。午前一〇時〇〇分にサイレン吹鳴すると同時に防災無線で訓練場所の放送をしました。一〇時

〇二分に最初の車両が現場到着、一〇時一分に放水開始。最終車両の到着が一〇時二二分。同車両の放水が一〇時三三分。一〇時四〇分に放水停止。その後震災供養塔まで移動し「災害から人命を守る」という意識を全団員が持ち参拝しました。参拝後は、大谿川にある消防水利の点検、清掃を行い、全ての訓練を終了しました。

近年は、地震や津波被害、早

故郷を歩く

日本のへそ西脇

西脇市消防団

今回は、西脇市の魅力をご紹介します。西脇市は兵庫県の中央やや東部に位置し、東経一三五度と北緯三五度が西脇市で交差することから「日本のへそ」の愛称で親しまれています。

西脇の名前の由来は、中心市街地を形成する西脇地区が古来この地の呼び名であった都麻津万(つま)郷の西側であるからとも、室町時代に当地を治めていた城の西側に位置していたことからとも言われています。

観光スポットとしては、旧来住家住宅があります。大正時代の高級民家で、当時の最高級の素材と最高の技術を用いて建築されており、国登録文化財となっ

い時季からの台風接近や、多発するゲリラ豪雨等自然災害の被害規模拡大が懸念されています。消防団は、まちの防災体制には不可欠であり、団組織の充実、強化を図らねばなりません。これからは「自分たちのまちは自分たちで守る」という心意気と地域に根ざした活動を展開して住民の期待に団員一丸となり応えていきます。

今回は、西脇市の魅力をご紹介します。また、この周辺には、大正から昭和にかけての趣きある住宅が多く、人気の散策コースとなっています。

次に、JR加古川線の駅名にもなっている西脇市のランドマーク「日本へそ公園」です。「日本へそ公園」には、この場所が東経一三五度と北緯三五度が交差することを示すモニユメントをはじめ、西脇市出身の世界の芸術家・横尾忠則氏の作品を収蔵展示する岡之山美術館や地球・宇宙をテーマにしたしりわき経緯度地球科学館「テラ・ドーム」があります。豊かな自然の中で、芸術と地球と宇宙の科学に触れることのできる公園として人気があり、休日には、たくさん家族連れで賑わいま



播州ラーメン



黒田庄和牛



日本のへそゴマ



旧来住家住宅

西脇の食と言えば、「播州ラーメン」があります。すっきりした甘味のあるスープが特徴の播州ラーメンは、その味を求め、遠方から食べに來られる方も多い人気のご当地グルメです。

特産物としては、黒田庄和牛があります。「神戸ビーフ」の優良産地として有名で、「幻の神戸ビーフ」とも言われる黒田庄和牛の味をぜひ堪能ください。また、新たな特産物として、金ゴマがあります。「日本のへそゴマ」の名前で有名な西脇の金ゴマは、香り・味ともに良く最高級の金ゴマとして、人気があります。

編集後記

県下の消防関係の皆様、週末のドライブまた、日帰り旅行のコースとして、阪神地域からでも車で約一時間半の距離にある西脇市にぜひお越しください。

海、山の季節となりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。さて、今月号の一面には平成二三年春の叙勲の伝達式及び受章者の方々を掲載しております。

栄えある叙勲を受章されましたことを事務局一同心からお喜び申し上げます。また、今回突撃取材として加西市消防団訓練式大会を取材させていただきました。ご協力くださいました関係者各位に厚くお礼申し上げます。

暑い日々が続きます。くれぐれも熱中症には気をつけてお過ごしください。